

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：32643

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23792743

研究課題名(和文)高齢者アクティビティケアを促進する看護基礎教育プログラムの開発と評価

研究課題名(英文) The development and evaluation of a basic nursing education program promoting elderly activity care

研究代表者

黒白 恵子(kurousu, keiko)

帝京大学・医療技術学部・講師

研究者番号：80458588

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、看護基礎教育の高齢者アクティビティケア(以下、AC)の構築の促進を目的に、看護大学の老年看護学におけるACの教育実態と教員の認識及び高齢者施設に従事する看護職のACへの教育課題を抽出し、高齢者ACプログラムの開発と評価を老年看護学教育で実施した。結果は、講義や学内演習での教育状況は3割、臨地実習は2割であったが、7割の教員が臨地実習での教育の必要性を認識していた。また、高齢者施設の看護職は、ACの対象である高齢者の心身の理解の教育の必要性を高く認識していた。さらに、学生の自己評価の分析から、高齢者AC教育は学内演習から臨地実習への継続的な学習が教育効果を高めることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：In the aim of promoting the development of elderly activity care (AC) during basic nursing education, we examined the educational state and staff perception of AC in geriatric nursing in nursing colleges and extracted educational tasks for AC conducted by nurses working in institutions housing the elderly. We then utilized our findings to develop and evaluate an elderly AC program in geriatric nursing. As a result, we found that 30% of AC education involved lectures and on-campus training and 20% of AC education involved on-site training. However, 70% of the staff acknowledged the need for education through on-site training. Moreover, nurses working at institutions housing the elderly strongly felt the need for education regarding mental and physical aspects of elderly individuals receiving AC. Furthermore, based on student self-evaluations, it was suggested that continuous learning in elderly AC education from on-campus lectures to on-site training will improve educational outcomes.

研究分野：老年看護学

キーワード：看護基礎教育 アクティビティケア レクリエーション

1. 研究開始当初の背景

平成 20 年 4 月 1 日に「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の一部改正が施行された。改正にあたって、看護師教育の「基本的考え方」は、「看護の対象者を、健康を損ねている者としてのみとらえるのではなく、疾患や障害を有している生活者として幅広くとらえて考えていくこと」を第一に掲げ、「老年看護学」では「生活機能の観点からアセスメントし、看護を展開する方法を学ぶ」ことを重視している。この生活機能の視点は、2001 年、世界保健機構で「国際生活機能分類 (ICF) で提唱されたものであるが、「人間が生活するうえで使用しているすべての機能」に対して、対象者の持てる力に着眼し、対象者が望む生活は何かを重視する新しい生活行動モデルの概念である。看護基礎教育における老年看護学では、今後、この「生活機能」の視点を取り入れ、高齢者を生活者として幅広くとらえ思考する授業構築が求められているが、その中でも「アクティビティケア (以下、AC)」が昨今注目を集めている。

AC は、高齢者の老化や廃用性萎縮を予防し生活の活性化を図る目的で行われる生活活動や運動、文化活動を指し、レクリエーションと同義語として扱われることが多いが、垣内 (2000) は衣食住の生活全般のアクティビティ・サービスの中に「楽しみ」であるレクリエーション・アクティビティを内包するものとして捉えている。

高齢者に対する AC の提供施設として、特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の入所施設、デイサービスやデイケア等の通所施設があるが、原田ら (2008) は、AC を担当している職種は介護職の次に看護職が多い現状を示しており、高齢者施設の看護職も介護職と同様に AC を実践する能力を持つことが求められているが、看護基礎教育におけるカリキュラムでは、AC やレクリエーションに関する科目は体系化されていない現状にある。

2. 研究の目的

そこで、本研究では、看護基礎教育における高齢者 AC の構築を促進するために、4 年制看護基礎教育機関における AC (以下、レクリエーションを含む) の教育状況の実態と認識及び高齢者施設に従事する看護職の AC への教育課題を抽出し、看護基礎教育課程における高齢者 AC プログラムの開発と評価を実施していく。

3. 研究の方法

本研究は 4 年間に亘り実施していく。1 年目は、全国の 4 年制看護大学の老年看護学における AC に関する教育状況の実態と老年看護学教員の認識をシラバスからの抽出と郵

送法によるアンケート調査によって明らかにした。2 年目は、埼玉県内の高齢者施設に従事する看護職の AC の実施状況と教育課題を郵送法によるアンケート調査によって明らかにした。3 年目と 4 年目は、1 ~ 2 年目の結果を参考に、A 看護大学の 3 年生と 4 年生を対象に、老年看護学の学内演習と臨地実習で高齢者施設の入所高齢者を対象とした AC 企画運営を実施し、20 項目 5 段階評価の調査表で自己評価の状況を明らかにした。

倫理的配慮は、1、2 年目の研究は目白大学倫理審査委員会、3、4 年目の研究は帝京大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 全国の 4 年制看護大学の老年看護学における AC に関する教育状況の実態と老年看護学教員の認識

回収率及び対象者の背景

2010 年現在、一般社団法人) 日本看護系大学協議会の会員校で開学後 4 年を経過した 165 校のうち、研究参加の承諾の得られた 31 校を対象とした。シラバスの返送および web 版シラバスの使用承諾の得られた教育機関は、22 校 (回収率 71.0%) で、設置主体は国立 10 校、公立 6 校、私立 4 校、無回答 2 校であった。また、アンケートの返送があった教育機関は 21 校 (回収率 67.7%) で、設置主体は国立 7 校、公立 7 校、私立 6 校、無回答 1 校で、教員の職位は、教授 8 名、准教授 9 名、講師 3 名、無回答 1 名であった。

シラバスの分析結果

老年看護学関連科目の講義または演習で AC の教育を実施している教育機関は 8 校、実習で企画運営している教育機関は 4 校であった。

老年看護学教員の AC 教育に関する認識

講師以上の老年看護学教員が AC の学習内容で最も履修すべきと考える項目は、「AC の種類」で、その中でも「体操」を学習項目として認識している教員が多かった。また、7 割の教員が、実習での AC の学習の必要性を認識していた。

(2) 高齢者施設の AC の実施状況と教育課題

回収率及び対象者の背景

2011 年現在、埼玉県の介護サービス情報公表システムに登録されている、介護老人福祉施設 (以下特養) 255 施設と介護老人保健施設 (以下老健) 135 施設の計 390 施設に従事する看護職を対象とした。調査用紙の回収数は 120 部 (回収率 30.8%) であった。そのうち有効な回答が得られた、特養 55 部、老健 49 部の計 104 部 (有効回答率 26.7%) を分析対象とした。

AC の実施状況

26 種類に分類した AC の中で、実施率が 8 割を超えたものは、特養は「施設内での行事」98.2%、「体操やストレッチ」90.9%、「習字・生け花」87.3%、「散歩・ドライブ」「外食・買い物」85.5%、「風船やボールのゲーム」「音楽鑑賞・コンサート」80.0%の 7 種類であった。また、老健は「施設内行事」100.0%、「楽器演奏・カラオケ」98.0%、「体操やストレッチ」「風船やボールのゲーム」95.9%、「習字・生け花」87.8%、「散歩・ドライブ」「絵画・陶芸・貼り絵」85.7%、「音楽鑑賞・コンサート」83.7%の 8 種類であった。また、実施率との関連では、特養で有意に高かったものは「外食・買い物」($p<0.01$)の 1 種類、老健では、「風船やボールのゲーム」($p<0.05$)、「楽器演奏・カラオケ」($p<0.01$)、「絵画・陶芸・貼り絵」($p<0.05$)、「映画鑑賞・ビデオ鑑賞」($p<0.05$)、「手工芸」($p<0.01$)、「将棋・麻雀・トランプ」($p<0.01$)、「農耕・園芸」($p<0.05$)、「ダンス・舞踊」($p<0.05$)の 8 種類で、老健で有意に実施率が高い AC が多かった。その要因として、施設機能や入居者の介護度、人員配置基準などの違いが影響を与えていると考えられた。

AC における看護職の役割

看護職が担当している AC の業務内容では特養、老健ともに「健康状態のチェック」と「実施中の観察」を看護職の 8 割が担当しており、AC における健康管理の役割が看護職に求められていることが示唆された。また、「移動の介助」に関しては、老健の看護職が特養に比べ有意に実施率が高かった。この要因として、老健の施設機能が入居者の自立を目指すことや介護度が特養に比べ低いことで、AC に参加可能な対象者が多いことが予測され、看護職の配置も多いことから、「移動の介助」の役割が求められていることが考えられた。

看護基礎教育で学生が学ぶべきと考える AC の教育内容

12 項目に分類した AC の教育内容の中で、最も回答率の高かったものは「AC の対象となる高齢者の心身の理解」で、特養、老健ともに 9 割を超えていた。また、心身の理解以外に 8 割が必要と回答していたものは、特養では「AC のチームケア・連携」「AC における事故防止」の 2 項目、老健では「AC の目的と看護職の役割」「AC における個人や集団への援助技術」「臨地実習における AC の実践」の 3 項目であった。施設種別との関連では、「AC の目的と看護職の役割」と「臨地実習における AC の実践」の 2 項目で、老健のほうが有意に基礎教育で学ぶべき教育内容として認識していた。($p<0.05$) この要因として、老健の看護職は、施設機能である日々の AC の実践を通して、入居者の心身に与

える効果を認識していることに加え、健康管理や移動の介助などの看護職の役割が AC の遂行のためには欠かせない要素として捉えていることが考えられ、看護基礎教育での実践学習の必要性を高く認識していることが推察された。

(3) 老年看護学の学内演習と臨地実習の AC 企画運営における学生の自己評価

回収率及び対象者の背景

2014 年 10 月から 2015 年 7 月に老年看護学実習を 3、4 年次に履修した看護学生 126 名を対象とした。学内演習と臨地実習の AC 企画運営後に提出した調査表の回収率は 52 部 (回収率 41.3%) で有効回答数の 51 部 (有効回答率 98.1%) を分析対象とした。

企画運営した AC の内容

学内演習で企画運営した AC は、身体機能を促進する運動 AC が 84%、認知機能を促進する知的 AC が 10%、残りは運動 AC と知的 AC の組み合わせであった。臨地実習も同様の結果であった。

自己評価の状況

学内演習と臨地実習の AC 企画運営の自己評価は、表 1 の通りで全ての項目で平均 3.0 以上を示し、臨地実習で有意差が確認された。($p<0.05$) このことから、AC の企画運営は学内演習から臨地実習への継続学習が自己評価を高めることが示唆された。

表 1. 自己評価の平均値 n=51

項目	学内		t 値
	学内 演習	臨地 実習	
(企画)			
看護のねらいの適切さ	3.75	4.16	5.14*
楽しめる内容	3.96	4.45	4.61*
理解しやすい内容	3.71	4.10	2.55*
説明内容の適切さ	3.45	4.06	4.09*
安全計画	3.61	3.98	2.90*
20 分から 30 分の企画	4.08	4.16	0.47
実験による環境企画	3.67	3.94	2.24*
実験による物品企画	3.86	4.18	1.93
(運営)			
時間配分	3.76	4.08	1.96
説明のわかりやすさ	3.43	3.90	2.86*
声の大きさ	4.14	4.39	2.76*
話す速さ	4.16	4.27	1.28
言葉遣い	4.18	4.22	0.33
参加者の反応確認	4.00	4.41	3.77*
参加者の安全確保	3.49	3.96	3.15*
参加者を楽しませる	3.92	4.39	4.28*
自分が楽しむ	4.33	4.73	3.73*
チームワーク	3.98	4.41	3.42*
看護のねらいの達成度	3.80	4.24	3.82*
看護の意味の理解	3.94	4.22	3.25*

* $p<0.05$

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

黒臼恵子、介護老人福祉施設と介護老人保健施設におけるアクティビティケアの看護職の役割と学習の認識、日本看護科学会誌、34巻、2014、142-149、査読有

黒臼恵子、老年看護学におけるアクティビティケアの教育状況と教員の認識、目白大学健康科学紀要、第6号、2013、51-53、査読有

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009613299>

〔学会発表〕(計0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

黒臼恵子 (KUROUSU KEIKO)

帝京大学・医療技術学部看護学科・講師

研究者番号：80458588